

システム情報工学研究科修士論文概要

年 度	平成 26 年度	学 位 名	修 士 (ビジネス)
専 攻	経営・政策科学	専攻	著者氏名
指導教員氏名		渡邊直樹	
論文題目			
事後的価格交渉における判例のコミットメント効果 —ホールドアップ問題の改善に向けて—			
論文概要			
<p>本稿では、企業間取引におけるホールドアップ問題の改善に向けて、再交渉ゲームをアプローチとして取引の事後的効率性への改善について考察する。分析手法として、先行研究である Hart and Moore (1988)と花菌 (2005)が構築したモデルを参考し、企業の間で契約を見直す再交渉ゲームにおいて、裁判所の仲裁にあたる新たなコミットメントを導入し、それを基に部分ゲーム完全均衡を導出した。そして均衡の意義について議論した。</p> <p>具体的に、まずは、ホールドアップ問題の発生要因:企業間取引における契約の不完備性および資産の特殊性についてまとめた。取引の買手側がホールドアップによる事後的余剰の損失を回避するために、支出の一部として事前投資そのものを控え、過小投資に至る。先行研究の中、Hart and Moore (1988)では一定な条件が満たされる場合、効率的な取引が成立し、過小投資が回避できるという結論に至った。花菌 (2005)では、Hart and Moore (1988)の複雑な回避アプローチを基に再交渉モデルを再構築し、効率的な取引が成立できる均衡に至った。本稿では、花菌 (2005)の結論では事後的効率性の損失が存在すると考える。次に、モデル設定を記述した後、再交渉ゲームに裁判所の新たな仲裁コミットメントを導入することにより、事後的効率性の損失が回避できるという命題を提示した。逆向き帰納法を使用して本稿で設定した再交渉ゲームの部分ゲーム完全均衡および均衡における支払額を導出した。最後に、本稿の分析により、花菌 (2005)では議論されなかった関係特殊的投資への促進効果があるという結論に至った。</p>			
審査日			
平成 27 年 1 月 29 日			
審査員	(大学名 職名)	(学位)	(氏名)
主査	筑波大学 教授	博士(学術)	秋山 英三
副査	筑波大学 准教授	Ph.D. in Economics	渡邊 直樹
副査	筑波大学 助教	Ph.D. in Economics	栗野 盛光